



2026年度 第22期 事業計画書

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062東京都世田谷区南烏山6-6-5安藤ビル3F

TEL : 03-6321-8948

Email: info@ftcj.org

URL : <https://www.ftcj.org>

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

2026年度 事業計画 (2026年1月1日～2026年12月31日まで)

1. 2026年度 事業実施方針

2024年に25周年を迎えたフリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、25年度を終え、2026年1月からまた新たな一歩を踏み出しました。四半世紀の活動を通じて確かな前進を実感する一方で、いまなお向き合うべき社会課題が残されていることを深く受け止めています。

2026年初頭にオックスファムが発表した最新の報告では、世界の富の偏在がさらに拡大し、上位1%が生み出す富の増加が、残り99%を大きく引き離していることが示されました。紛争、気候危機、物価高騰の影響を受ける地域では、子どもたちの教育・医療・安全が脅かされ続けています。

こうした国際的な状況に加え、国内でも子どもたちの置かれた環境は厳しさを増しています。2025年に公表された統計では、子どもの自殺者数が1980年代の統計開始以来の過去最多水準で高止まりし、特に10代後半の若者の「生きづらさ」は深刻です。家庭の経済状況、学校での孤立、精神的な不安定さなど、子ども自身が選べない環境要因が、未来の選択肢を狭めてしまう現実があります。

こうした状況だからこそ、私たちは、子どもや若者が自分と世界が確かにつながっていることを実感し、そのつながりにワクワクしながら行動できる場を広げていきたいと強く願っています。自分の声や行動が誰かの力になり、社会を動かす一歩になる——その手応えを感じられる経験こそが、子どもたちのレジリエンスと未来への希望を育むと信じています。2026年度は、このビジョンをより確かなものにするための挑戦の年です。

世界の状況が厳しさを増す今だからこそ、子どもたちが「自分にもできることがある」と信じられる場を守り、広げていくことが、私たちの使命です。小さな団体であっても、子どもたちの声と行動が社会、そして世界をも動かす力になることを、私たちはこれまでの25年で確かに見してきました。2026年度も、皆さまとともに、子どもたちの今と未来を切り拓く活動を進めてまいります。

▼2026年度重点活動

1. 子どもの権利とウェルビーイングの実現に向け、自己肯定感を育む教育プログラム(テイク・アクション・キャンプやスタディツアー等)の強化。

そのために、低所得家庭や社会的養護下、障害のある子どもなど、多様な背景をもつ子どもが参加できるよう参加支援体制を整える。

2. 日本の自治体や学校、NPO団体などと連携し、「子どもの声を聴く」環境づくりの拡充(ファシリテーター育成など)。

3. コンゴ民主共和国への国際協力支援の継続と、フィリピン先住民族およびインド貧困家庭の子どもへの教育支援の拡充。

以上、本事業を実施するにあたり、メンバーやサポーターをはじめ多くの皆さまのお力添えをいただきながら歩んでまいりたいと思います。どうぞ2026年度もよろしく願いいたします。

代表理事 中島早苗

2026年度事業実施に関する計画

<WE Movement>

・子ども主体活動

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
子どもアンバサダー企画活動	2026年のアンバサダー（旧子ども代表委員）がファシリテーターとなってフリー・ザ・チルドレンのメンバーを繋ぐイベントを実施できるようにする。また、自分がおこなったソーシャルアクションをブログやSNSで発信する取り組みも促す。また、アンバサダーは総会へ出席し組織運営について意見することができる。	通年	全国	子どもメンバー 約800人～	1,000
メンバーチーム活動	メンバー登録する子どもやユースが目的に応じてチームを組んでの活動する。 ▼チョコレートプロジェクト ▼アクションキッズ	通年	全国	子どもメンバー 約800人～	1,000

・子ども活動応援

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
子ども若者育成	【Take Action Campの実施】 日本国内でリーダーシップトレーニング・キャンプ（Take Action Camp）を実施する。このキャンプは、子どもや若者が国内外の社会課題を知り、その解決に向けて行動するための力を育む合宿型の育成プログラムです。社会問題の理解からアクションの立案までを学び、「自分に何ができるか」を深く考える機会を提供する。	夏休みに3泊4日、冬休みに2泊3日の合宿型を実施	日本	日本の小5～18歳までの子ども70人	4,500
	【SDG4教育キャンペーン政策提言ユース支援】 子どもや若者をSDG4の教育目標の達成に向けて国内外の子どもが質の良い教育を受けられることを目指し、啓発活動や世論喚起、政策提言に取り組めるよう育成し、キャンペーンを実施する。JNNE（教育協力NGOネットワーク）の構成団体と共に連携して行う。	通年	日本	日本にいる子ども若者18名ほど	2,500
	【ファシリテーター育成活動】 リーダーシップトレーニングキャンプやワークショップを実施するための学生ファシリテーターの育成をする。子どもの権利を理解、尊重し、子どもに接することができるような人材育成をする。また、育てたファシリテーターの活躍の場を提供する。	通年	主に東京都	全国のユース30人	1,500
	【スタディツアー】 学校からの依頼など含めフィリピンやケニアなどの支援先を訪問するスタディツアーを、長期休みや学校の予定にあわせて実施予定。約1週間支援先の現地を訪問し、現地の子どもとの交流や国際協力について学び考える。	1月3月8月9月	フィリピン・ケニア	60名	12,000
子ども若者活動環境づくり・サポート	【We are the MOVEMENT】 子ども・ユースメンバーからプロジェクト企画を募り、選考し、選ばれたプロジェクトの実施のサポートを事務局で行う。子どもや若者が主体的に社会問題に取り組む担い手となれるよう支援する。採用プロジェクト数は12件程度を予定。	通年	全国	全国の子ども・若者12名及び参加者のアクションによる波及効果360名	2,000
	【子どもメンバーのギャザリング・交流の場づくり】 年に1回同窓会、活動発表の場を設け交流を図る	通年	全国	子どもメンバー（約800人～）	300
	【全国の子どもメンバーからの質問対応、活動へのサポート】子ども世代からの質問対応、情報提供、子どもが活動しやすい会員制度の検討 ①アクションキットを使いアクションを促す ②フードドライブアクションキャンペーンの強化。秋にフードドライブキャンペーンを強く打ち出し、各地で子どもたちがフードドライブに取り組めるようサポート・PRを行う。 ③子どもや若者が政策提言活動やその他活動に参加したり登壇したりする機会を提供、支援する。 ④子どもメンバーからの相談に乗り、より良い活動ができるよう伴走する。	通年	全国	子どもメンバー（約800人～）	1,100

・アドボカシー（啓発）活動

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
出前授業・研修事業	出前授業・研修・講座・講演の実施（国際理解教育、人権教育に関心のある学校や地域、子どもの権利やウェルビーイングに関する研修を自治体、企業、団体などからの要請を受け事業を実施する。） 2026年目標：オンオフライン計15,100人へ実施する。	通年	全国	全国の子ども・一般人：10,000人 教員：100人 自治体職員：5,000人	4,500
子どもの意見聴取事業	・自治体や行政、その他団体などの関係者とともに、子どもの意見聴取を実施するためにファシリテーター業務を行ったり、子ども会議の運営を支援する ・国立成育医療研究センターと協働で入院経験のある子どもや若者のこえを聴き、そのこえを活かして病院づくりを行う「ミライの病院プロジェクト」を実施する。	通年	全国	全国の自治体や組織 国立成育医療研究センターに関わる子ども約15万人	4,500
FTCチェンジメーカー教育プログラム	①子どもの意見聴取体制のアップデート 子どもの意見聴取をサポートする研修・システムの構築 ②教材開発 世界の貧困や紛争をなくすためや、子どもの権利やウェルビーイングについての教材開発・改定、ファシリテーターテキスト改訂を行う ③学校連携強化 全国の学校など教育機関に、チェンジメーカー教育プログラムの周知を行い、学校登録を促す。学校との連携事業を強化する。 ④自治体連携強化 全国の自治体に、子どもの意見聴取をサポートする講座・研修・ファシリテーター派遣を強化する。 ⑤登録者への情報提供、研修の提供	通年	全国	全国の子ども達・一般人：10,000人 教員：100人	3,000
出版	書籍や雑誌を通じて、社会課題を伝えたり、子どものウェルビーイングが実現されたりするよう原稿執筆を行う	通年	全国	全国の子どもや家族、子どもに関わるおとな1万人	300
物販	貧困層の自立につながるフェアトレード商品や国際理解教育教材（DVD）や書籍などの仕入れ、紹介、販売、管理を行う。また店舗での委託販売先の開拓も開始する。 ①児童労働シミュレーションカードゲーム等の教材販売促進キャンペーンを実施 ②子どもが文化祭等で販売する商品の開発の継続 ③オンラインショップを通じた販売の促進	通年	全国	全国のメンバー800人～ 購入者100人～	1,000
イベント	FTCJ主催イベントの開催及び他団体主催によるイベントへの参加 ①FTCJ主催イベント 子どもの権利やウェルビーイングの実現に向けたイベントを実施する。Fesとの連動全国イベントとして開催する。フードロス及びフードドライブイベント、街頭募金、活動報告会他 ②他団体主催イベント パネル展示、動画上映、スピーチなどを通して、権利を奪われた子どもの現状や団体活動紹介をする。同時に物販活動も行う。(子どもの権利条約フォーラム、グロフェス、ワンフェス、ユースワンフェス、愛地球まつり、世田谷区国際メッセ)	通年	全国	全国の子ども・一般10,000人	1,000
メルマガ/ニュースレター/年次報告発行	①メールマガジンを毎月2回発行する。 ②ニュースレター（年2回）を発行する ①アニュアルレポート（年1回）を発行する。（各750部）	通年	団体オフィス	全国の子ども達・一般3,000人	800
SNS	子ども・若者をはじめ、大人など幅広い層に向け国際協力活動や、子どものウェルビーイングの実現に向けた情報ツール構築・発信を行う。SNSを利用して取組みの内容を発信していく。	通年	団体オフィス	子どもメンバー（約800人～）	1,500
webサイト	①子どもを対象にしたウェブページの構築のアップデートを行い、適切な情報が届くようにする。 ②支援先の情報、子どものアクションの情報を随時発信していく ③学校、自治体、企業などセクター別に分かりやすく情報を発信できるように改定する。	通年	団体オフィス	全国の子ども・教育関係者・その他一般10,000人	2,000

問い合わせ 対応／オ フィス訪問 対応	学校単位での訪問・インターンの受け入れ、 ボランティア、来客対応	通年	団体オ フィス	月1回ボラン ティアデー、 事務所訪問な ど	300
------------------------------	-------------------------------------	----	------------	---------------------------------	-----

・ Change Makers Fes

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
Change Makers Fes関連イベント	人や地球のことを考え、アクションを起こした25歳以下の子どもや若者をエンパワーし、チェンジメーカー同士が繋がる交流イベントを開催する。	通年	全国	25歳以下の子ども若者500人	3,000

・ 外部ネットワーク活動

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
外部ネットワーク構築	①DCL-Net(児童労働ネットワーク)・NGO労組協働フォーラムへの運営委員参加と事業実施 ②JNNE(教育協力NGOネットワーク)への運営委員参加と「SDG4教育キャンペーン2026」実行委員会復帰及び事務局担当 ③他組織の会員になって他団体と繋がって活動する。(新公益連盟、SDGsネットワーク等) ④「広げよう!子どもの権利条約」キャンペーンの運営と参加 ⑤「子どもの権利条約フォーラム2026inぎふ」の実行委員団体としての活動	通年	全国	開発途上国及び国内の子ども	5,000

自立支援事業: Free The Childrenプログラム

・ 海外事業

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
インド	【CCD支援】 西ベンガル州コルカタ付近にある現地パートナーNGO「CCD」を通じて貧困地域へ教育支援を行う。具体的には、低所得者家庭の子どもが質の良い基礎教育や、高等教育を受けられるよう支援する。	通年	西ベンガル州	貧困地域20世帯	500
	【リムラスクール支援】 マハラシュトラ州ムンバイ近郊で、低所得家庭の子ども、とくに女子の教育機会を広げる「リムラスクール」を通じて、質の高い初等・中等教育を提供する支援を行います。	通年	マハラシュトラ州	貧困家庭の子ども30人	1,500
フィリピン	【プレダ基金子ども支援】 フィリピンのパートナーNGOプレダ基金を通じて、虐待を受けたり、刑務所から救出された子どもの自立に向けた包括的な支援を行う。	通年	ルソン島	虐待や刑務所から救出された子ども100人	300
	【先住民族の子どもへの教育・栄養改善支援】 パートナーNGOであるプレダ基金やKPACを通じて、ルソン島サンバレス州のアエタ民族やミンダナオ島の先住民族の小中高生を対象に、食糧配給による健康支援や、水支援、教育施設の改修を行い、子どもの健康改善や学校中退の防止を図る。	通年	ルソン島	先住民族の子ども200人	1,500
ケニア	【FTCネットワーク活動】 ナロック群南ナロック県内の先住民族コミュニティを対象に、貧困から脱却するための包括的な自立支援を行う。特に、先住民族の女の子が質の良い教育を受けられるよう、女子教育拡充支援を行う。	通年	ケニア	支援先農村の村民1500人	200
コンゴ民主共和国(DRC)	【農業/収入支援】 コンゴの南キブ州のコミュニティにいる農村貧困家庭を対象に、持続可能な農業支援や、収入向上支援を行い、人々、特に子どもの健康向上に向けた支援事業を行う。また、紛争解決に向けた日本国内での啓発活動につながる教材開発や情報発信を行う。	通年	DRC	コンゴ南キブ州100人	1,500

・ 国内事業

活動名	活動内容	日時	場所	受益対象者の範囲及び人数	事業予算(千円)
国内の子ども支援	【スカラシップ支援】経済的な理由などにより、FTCJが主催するテイク・アクション・キャンプやスタディツアーへの参加をあきらめざるを得ない子どもが生まれないよう、参加費の全額免除または負担軽減を行い、参加を支援する。 【教育応援金支援】 ひとり親家庭をはじめとする経済的に厳しい状況にある家庭の子どもに対し、入学・進級期に発生する教育関連費を支援するための応援金を給付し、子どもの学びの継続を後押しする。	通年	全国	経済的課題に直面する国内の子ども200人	3,000

管理部・その他 この法人の目的を達成するために必要な事業に関する計画

管理部

活動名	活動内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業予算(千円)
翻訳	事業の運営に係る資料を日・英に翻訳	通年	東京	30	10
研修受講	円滑な組織・事務局運営のため研修を受講 事業実行のためのスキルアップ	通年	東京	8	100
個人情報管理	メンバーや協力者などの個人情報を整理し管理を行う	通年	東京	4	160
ファンドレイジング	より良い事業運営、組織運営のため、資金調達計画を策定し、実施する。団体の活動をわかりやすく伝え、団体を支えていただく人を増やしていく	通年	東京	3	400
広報・ブランディング	広報が担当となり、計画的な広報を実施。サポーター増強のためのWEBサイトの更新、googleアナリティクスの運用など	通年	東京	3	800
問い合わせ対応	事務局に届く問合せや連絡に対応。対応例：事務所訪問、出張講演調整、教材や物販の注文、団体など組織からのアンケートへ返答、子ども、大学生、社会人からの質問返答、メンバー希望、団体への質問返答など	通年	東京	3	500
会計	組織の透明な会計のための団体に関する資金の流れを管理し、税務関係資料作成や帳簿を付けるなどの業務を実施	通年	東京	2	2,500
制度	セーフガーディング取得設計	通年	東京	3	100
理事会・事務局運営	・中長期計画に基づき、連携をする。 ・事業を円滑に実施するための理事会の運営。	通年	東京	11	50
その他	オンラインで労働環境の構築（ZOOMやバーチャルオフィスの利用等）	通年	東京	5	50

3 2026年次の役員に関する事項

a) 理事会役員について 理事会より2024年次の理事および監事の候補の方々を紹介します。(順不同)

新・継続	氏名	役職	居所	紹介文
更新	中島 早苗 (なかじま さなえ)	理事 【代表】	愛知	FTCJの理念を日本の子どもに紹介するためFTCJを1999年に設立。以来、活動に従事。04～05年度代表理事に就任後06～09年度に副代表理事兼事務局長に就任、10年度から代表理事に再任。
更新	原元 望 (はらもと のぞみ)	理事 【副代表】	山口	2000年の高校生時代から活動に従事。2010年まで理事を務め、2011～2021年度まで事務局長として事務局全体の運営や組織基盤強化を担当する。2013年「アユスNGO新人賞」を受賞。
更新	伴野 保志 (とも の やすし)	理事	東京	2000年から活動に携わり、04～05年度に副代表理事に就任後06～09年度まで代表理事に就任。事務局では外部ネットワークリーダーや、総務担当として活動。10年度から副代表理事に就任。その後2018年度から理事に就任。
更新	藤井 裕子 (ふじい ゆうこ)	理事	兵庫	2007年にフィリピンへのスタディツアーに参加して以来、正会員として団体の組織運営を始め、関西での子どもの活動や出張講演サポートなど活動に従事。2016年度から理事に就任。
更新	志賀 アリカ (しが ありか)	理事	長野	09～11年度まで子ども代表委員として活動に参加し事務局運営や子ども主体事業企画運営に携わり、子どもメンバーとして積極的に活動を展開。2012年度からユースとして理事に就任。
更新	林 大介 (はやし だいすけ)	理事	東京	東洋大学社会学部助教、子どもの権利条約ネットワーク事務局長、川崎市子どもの権利委員会委員、模擬選挙推進ネットワーク事務局長等を就任。1976年東京生まれ3児の父親。FTCJにおける子どもの権利推進擁護活動の充実のため、2017年度から理事に就任。
更新	中島 慎治 (なかじま しんじ)	理事	愛知	1999年にフィリピンの子どもの権利活動家の少女ピア(商業的性的搾取の被害者だったが12歳の時FTCJのパートナー団体プレダ基金に保護され活動家に) 来日時のドキュメンタリー番組を制作したことからFTCJと接点を持つ。NHK名古屋放送局エグゼクティブプロデューサー。2019年度から理事に就任。
更新	松下 耕二 (まつした こうじ)	理事	東京	阪神淡路大震災でACのTVCMを見て、高校生ボランティアに参加。世界を良くするためにCMプランナーを志す。広告会社に勤務。2019年MBA取得、修士論文は「非営利組織の経営戦略」。2児の父。2020年度から理事に就任。
新規	飯倉 加奈 (いいくら かな)	理事	東京	FTCJの元子どもメンバーでフィリピン支援事業チームリーダー。2024年Green Impact Labs, Inc. 取締役COOに就任。同職を退任後、個人にて国際機関および民間企業に対して助言提供するとともに国連大学グローバルヘルス研究所(マレーシア)にて客員研究員を務める。
更新	倉下 由香 (くらした ゆか)	監事 (業務)	東京	2011年度より事務局の会計スタッフとして5年間勤務し、FTCJの活動を支える。2018年度から監事として役員へ就任。2026年度から業務担当の監事に理事会より推薦。
更新	宮島 珠 (みやじま たま)	監事 (会計)	神奈川	FTCJのNPO法人認定時から会計監査として活動を支え、2019年の休任期間を経て、2020年度より再び監事を務め主に会計面での監査を担当している。

b) アドバイザーの紹介

◆河合 将生 (かわい まさお) 氏

NPO・NGOの組織基盤強化やファンドレイジング、マネジメントのコンサルタントや、組織の協働・連携のコーディネート及び国際協力やキャリア育成に関する相談・講演を行うoffice musubimeの代表

◆平尾潔(ひらおきよし) 弁護士

日本弁護士連合会所属、世田谷区せたがやホッと子どもサポート委員。

◆堀内 光子 (ほりうち みつこ) 氏

労働問題や女性の権利の分野での研究・専門家。公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 理事長、地球憲章国際審議会委員、児童労働ネットワーク代表。また、2006年よりフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動をサポート。